

地球惑星科学関連学会

連絡会ニュース

No. 29

(2003年12月)

- [1] 地球惑星科学関連学会 2004年合同大会のお知らせ
- [2] 第13回ゴールドシュミット国際会議(Goldschmidt 2003) 終了報告
- [3] 第28回地球惑星化学関連学会連絡会議事録(案)

本号は 2004年合同大会の予定をお知らせします。来年の合同大会は、2004年5月9日～13日の5日間を会期とし、本年と同じ幕張メッセ国際会議場で開催されます。参加費、投稿料の支払いがオンラインクレジットカードに変更されますので、ご注意ください。また本年9月に成功裡に終了したゴールドシュミット国際会議の様をお伝えます。さらに第28回の連絡会の議事録(案)も掲載します。連絡会では今後の合同大会の運営について議論されていますので、是非お読みください。

[1] 地球惑星科学関連学会2004年 合同大会のお知らせ

地球惑星科学合同大会運営機構

- 目次 -

- § 1 合同大会案内サマリー
(各種登録日程、費用、お問い合わせ先)
- § 2 セッション案内
- § 3 各種登録について(変更・キャンセル他)
- § 4 運営機構からのお知らせ(展示・会合のお申込等)

§ 1 合同大会案内サマリー

- 会期：2004年5月9日(日)～13日(木)
(5月9日 特別公開セッション
「新しい地学教育の試み」)
- 会場：幕張メッセ 国際会議場
- 各種受付開始日・締切日：

開催日の都合上、各登録締切が例年より、早い時期に繰り上がっています。ご注意ください。

	受付開始日	受付締切日
予稿集原稿 投稿	2004/1/5 (月)	早期〆切：2004/1/26(月) 24:00
		最終〆切：2004/2/6(金) 17:00
大会参加登録 事前申込	2004/1/5 (月)	全日程参加： 2004/3/12(金) 17:00
		一日のみ参加： 2004/4/28(水) 17:00
オンライン クレジットカ ード決済	2004/3/15 (月)	投稿料及び参加費 *1 2004/3/31(水) 17:00

*1 参加費は3/12以前お申し込みのみが対象となります。
3/13以降お申し込みの事前一日券は当日、受付にてお支払下さい。

●各種料金：

予稿集原稿投稿

早期投稿	2004/1/26まで	1,500円
通常投稿	2004/1/27以降	3,000円
図掲載	Web アップロード	500円
	郵送	1,000円

** 投稿料金は、新規投稿を終えた時点で課金されます。その後内容を変更されても料金は変わりません。

** 図の掲載は、希望者のみ、投稿〆切時点の選択肢で確定され、新規投稿料に加算されます。

事前参加登録申込

全日程	一般 10,000円	学生 8,000円
一日券	共通 5,000円	

当日参加登録申込

全日程	一般 12,000円	学生 8,000円
一日券	共通 6,000円	

** 学部生および70歳以上の方は、参加登録が無料となります。

●お支払方法：

オンラインシステムによるクレジットカードでのお支払になりました。振り込みに行く手間が省けます。(郵便振替は廃止させていただきます)

事前参加登録(全日程)締切後3/15(月)に、各お申込者へ「請求メール」をお送りします。内容に従って、Web サイトより、支払入力をお願いします。

** 校費払いは銀行振り込みとします。事務局へご連絡ください。(ご注意)

** 3/13以降の参加登録(一日券)お申し込みは大会当日払いとなります。お申し込みは3/12までにお済ませ下さい。

- ** 支払方法の変更により、請求書の送付はありません。請求書の必要な場合は、事務局へ直接お申し付けください。
- ** 特別な事情でクレジットカード以外でのお支払をご希望の場合、事務局へご連絡下さい。

●大会ホームページ：

2004年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

 合同大会ホームページ
<http://www.epsu.jp/jmoo2004/>

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。

●お問い合わせ先：

(問い合わせ先一覧は大会ホームページに掲載されています)

①各種登録システムサポート

- ・登録ページにアクセスできない
- ・文字入力ができない
- ・確認メールが来ない etc...

②個人情報登録・参加登録

- ・ID&パスワード照会
- ・ID削除したいとき
- ・e-mailをお持ちでない方
- ・海外から登録される方
- ・参加登録変更、取消(要受付期間確認) etc...

③セッション・予稿集原稿投稿

(但し、システムサポートは①)

④会合の申込

■上記以外大会全般■：

(特別公開セッション、展示、予稿集バックナンバー請求等)

合同大会運営機構 事務局

〒133-0033 東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学理学部新1号館 719室
 Email: Fax: 03-5800-6839

§2 セッション案内

2004年合同大会では、以下の全87セッションが開催されることになりました。各セッションの詳細・御問合せ先は合同大会ホームページに掲載している「セッション一覧」をご参照ください。

●講演要旨(予稿集原稿)の投稿について

1/5~2/6の期間に合同大会ホームページ上で行って下さい。例年より、締切が早くなっています。投稿はお早めにお願ひ致します。

●プログラム編集作業について

2月中-下旬に行われます。代表コンピーナーの方にご協力をお願いすることがありますので、連絡が取れますよう日程のご調整をお願いします。また、期間中ご不在の場合は代理の方をプログラム委員会へ、予めお知らせ下さい。

●特別公開セッションの開催

新しい地学教育の試み - 地球惑星科学から「高校地学」へ -
 セッション開催日：2004/5/9(日) 10:30- (予定)
 参加費：無料
 参加お申込み・お問い合わせ：運営機構事務局

2003年合同大会で開催された特別公開セッション「地学教育の昨日・今日・明日-地球惑星科学は理科・地学離れを救えるか?」では、地学教育が抱える様々な問題点が浮き彫りにされ、地学教育再生のための試みを様々な観点から行っていくことの必要性が、出席者間で改めて確認されました。

これを受けて2004年合同大会特別公開セッションでは、履修者数減少という形で最も顕著に問題が表面化している高校「地学」の教科内容に主眼をおき、引き続き地学教育に取り組みます。『本当に教えて貰いたい内容は何か?』セッションでは、その内容を教材の形で募集し、該当分野における位置付けなどの発表を企画しております。現在発表者の募集をしております。詳細は合同大会HP又は、地学教育委員会までお問合せください。

■2004年大会開催セッション一覧■

特別公開セッション：

- ・新しい地学教育の試み -地球惑星科学から「高校地学」へ-

ユニオンセッション：

- ・宇宙生存圏科学
- ・固体地球、表層環境、生命の共進化

レギュラー・スペシャルセッション

(レギュラーセッションの提案学会・グループについては、<http://www.epsu.jp/jmoo2004/Rsession.html> をご覧ください)

-大記号・分類名- -セッション名-

V 火山学

- ・活動的火山
- ・マグマシステムと噴火・堆積機構
- ・火山爆発のダイナミクス
- ・御岳火山-群発地震と火山活動-

K 岩石・鉱物学

- ・深成岩とマグマ-その発生から侵入固結まで-
- ・鉱物の物理・化学
- ・伊豆-小笠原-マリアナ弧とサブダクションファクトリー-

S 地震学

- ・地震に伴う諸現象
- ・地震発生の物理
- ・地震活動
- ・強震動・地震災害
- ・地震の理論・解析法
- ・地震計測・処理システム
- ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化
- ・地震予知
- ・地震一般
- ・地盤構造・地盤震動
- ・震源過程・発震機構
- ・地殻構造

H 水文・陸水・地下水学

- ・水循環・水環境
- ・都市域の地下水・環境地質
- ・北東アジア植生変遷域の水循環と生物・大気圏の相互作用
- ・同位体水文学 2004

W 雪水学

- ・コア研究が拓く地球史・人類史

D 測地学

- ・重力・ジオイド
- ・測地学一般(含、計測技術、地球潮汐)
- ・衛星測位技術の変動する重力場研究への応用
- ・GPS
- ・地殻変動

F 大気・海洋学

- ・衛星測位技術の大気圏・電離圏科学への応用

Q 第四紀学

- ・第四紀
- ・沖積層研究の新展開

C 地球化学

- ・固体地球化学・惑星化学
- ・地球環境変化と大気水圏の物質循環

L 地球環境・気候変動学

- ・古気候・古海洋変動
- ・高緯度域における最新の古海洋研究

B 地球生命科学

- ・生命-水-鉱物相互作用の場の実態
- ・アーキアンパーク計画：海底熱水系における地圏・生物圏相互作用
- ・アストロバイオロジー：宇宙における生命の起源・進化・分布と未来

E 地球電磁気学

- ・太陽圏・惑星間空間
- ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
- ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
- ・地磁気・古地磁気
- ・磁気圏-電離圏結合
- ・宇宙天気
- ・電磁現象による地殻活動予測の可能性
- ・電離圏・熱圏
- ・大気圏・熱圏下部
- ・磁気圏構造とダイナミクス

I 地球内部科学

- ・地球構成物質のレオロジーと物質移動 -流動・破壊・摩擦現象と水
- ・地球深部ダイナミクス：プレート・マントル・核の相互作用

T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス

- ・地下温度構造・熱過程
- ・テクトニクス

G 地質学

- ・地域地質と構造発達史
- ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報
- ・長期火成活動と火山発達史
- ・放射性廃棄物の地層処分
- ・地層処分における地球科学的課題の検討
- ・変形岩・変成岩とテクトニクス
- ・氾濫原堆積物の特徴とそれに含まれる脊椎動物を主とする化石群集

Y 防災・応用地球科学

- ・地質ハザード・地質環境

P 惑星科学

- ・惑星科学
- ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
- ・系外地球型惑星、木星型惑星
- ・月の科学と探査
- ・変遷する火星

Z その他

- ・地球温暖化防止のための CO2 固定とカーボンサイクル

J ジョイント

- ・宇宙・惑星観測技術
- ・地球年代学・年代層序学
- ・地球流体力学 -地球惑星科学における「遷移現象と多重解」へのアプローチ
- ・オフィオライトと海洋地殻
- ・岩石・鉱物・資源
- ・惑星地球システムの安定性と不安定性
- ・惑星圏のリモートセンシング
- ・地学教育
- ・キッチン地球科学
- ・オフ・フォールト・パレオサイスマロロジー
- ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
- ・大学等からのボトムアップ提案による地球観測科学衛星構想
- ・地球内部の能動的モニタリング
- ・映像でみる地球惑星科学
- ・活断層と古地震
- ・情報地球惑星科学
- ・巨大地震発生帯の科学
- ・海洋底地球科学

§ 3 各種登録について (変更・取消等)

合同大会では、以下①～⑤の登録が必要です。全て大会ホームページから行って下さい。

- ①個人情報登録
- ②参加登録 (事前申込)
- ③予稿集原稿投稿 (講演申込)
- ④オンラインクレジットカード支払
- ⑤郵送先住所指定登録

§ 3. 1 個人情報登録

合同大会では、個人情報登録によって、ID 番号を取得していただいております。ID 番号は各種登録、照会に必要です。登録は無料ですので、まだ個人情報登録をされていない方はまず「合同大会ホームページ」の『個人情報登録』にてご登録を行って、ID 番

号を取得して下さい。

●参加される方、講演申込する方、コンピナーの方、共著者の方、座長をされる方、合同大会の情報を希望される方全員必要です。ただし、既に登録済みで、ID番号をお持ちの方は再度行う必要はありません。転勤・卒業等で住所変更が生じた場合も、Web上の「個人情報登録」にて、所属・住所変更手続きを行って下さい。

＜＜ 個人情報登録のために必要な情報 ＞＞

- ・氏名(漢字、カタカナ、英語) 姓と名別々に
- ・所属学会(複数選択式)
- ・所属機関名(漢字、カタカナ、英語)
- ・所属機関名略称(漢字、英語)(表示用)
- ・所属機関住所(漢字、英語)
- ・身分(学生、一般 選択式)
- ・TEL, FAX, E-mail

§ 3. 2 参加登録(事前申込)

●参加される方は全員必須です。当日ご来場される方(発表者、座長、聴講・見学のみの方)は、参加登録が必要です。大会当日は会場への入場は、参加登録後郵送される名札をご用意していただけます。事前申込は当日申込(当日登録)より料金がお安くなっていますので、お勧めいたします。

§ 3. 3 予稿集原稿投稿(講演申込)

●講演申込をされる方は①、②に加えて③を行って下さい。共著の場合は、共著者についても①が必要ですのでご注意ください。当日発表される方も参加登録が必要です。

§ 3. 4 オンラインクレジットカード支払

●2004年大会では、参加費、投稿料はクレジットカード(VISA、MASTER、ダイナース、JCB)のお支払となります。事前参加登録締切後3/15(月)以降に、各参加者にメールにて支払い画面のURLと、金額を通知いたしますので、支払いの手続きをお願いいたします。

§ 3. 5 郵送先住所指定登録

●プログラムおよび予稿集CD-ROMは、参加登録申込者(事前申込全日程)の方へ4月20日迄にお届けする予定です。例年、所属機関と実際の居室が異なったり、建物が複数あったりと、郵送物が行き先不明で戻ってきたり、お届けが遅くなるケースが多く見られます。確実に郵送物がお手元に届く住所をここで、ご指定ください。転勤・卒業等で住所変更が生じた場合や、移行期間で住所が未確定な場合なども、ご自宅など確実にお届けできる住所指定を行って下さい。発送業務は、4月6日から16日を予定しています。4月5日までに指定登録をお済ませ下さい。

§ 3. 6 変更・キャンセルについて

●予稿集原稿投稿

受付期間	変更	取消	連絡方法
2004/2/6(金) 17:00 まで	○	○	Web
2004/2/7(土) 以降 *1	×	×	-

*1 CD-ROM作成開始のため、投稿料は課金されます。参加を取り消されても予稿集原稿登録料の返金はできませんので、予めご了承下さい。

●事前参加登録(申込)

受付期間	変更	取消	連絡方法
2004/3/12(金) 17:00 まで	○	○	Email・FAX *2
2004/3/13(土) 以降	△*1	×	-

*1 「事前一日」→「事前全日」のみ変更可能差額は当日精算

*2 変更取消連絡先: FAX:03-5800-6839 Email:
ご連絡時は個人情報ID番号もお知らせ下さい。

§ 4 運営機構からのお知らせ

§ 4. 1 運営機構ホームページのご案内

運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく、2004年合同大会のお知らせ、準備状況、各学会へのリンク、地球惑星科学関連の専攻、学科、研究所へのリンク、連絡会のお知らせ、等を掲載していきます。

URL <http://www.epsu.jp/>

§ 4. 2 参加費についてのご願い

本年度から会期が5日間に増えるため、合同大会の会計は昨年度までにくらべ 厳しい状況におかれることが予想されます。健全な財政を維持し、皆様の参加費を来年度以降もなるべく低い水準に維持するため、以下の事をお願いしたいと思います。

- (1) 当日お支払いの方、一日参加の方は、まず受付にお立ち寄りになり、精算を済ませた上で名札を受け取って参加してください。
- (2) 名札を付けずに会場に入られた方には理由をお伺いします。
- (3) クレジットカードによる支払いは、参加登録とは別に行われます。この手続きをなさらずに、運営機構に連絡無く参加されなかった方にも、参加費を請求させていただきます。請求は大会後なされます。この場合、事務手数料3000円が加算されて請求がなされますので、どうぞご注意ください。

§ 4. 3 合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付け時間、場所は以下の通りに開設する予定です。

■ 当日総合受付 ■

5/9(日)~13(木) AM 8:30~PM 5:00(予定)

1F 受付カウンター

(参加登録・予稿集原稿CD-ROM販売・各種案内)

§ 4. 4 団体展示・書籍出版展示

合同大会では、2F中央ロビー及びホワイエにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。21世紀プログラム拠点大学の展示もございます。様々な形で自由にご利用頂き、有効な情報交換の場としてご活用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細（申し込み要綱）をご案内します。尚、お申し込みは2月末日（最終締切）まで、スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、大会HP「各種お知らせ」をご覧ください。

§ 4. 5 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、プログラム日程決定後下記の通り、先着順で受付します。会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合は、できる限り会場周辺の会議施設をご紹介させていただきますが、やむを得ず、ご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

尚、部屋使用料金、お弁当等の詳細はHP「会合のお申込」をご覧ください。

■ お申し込み受付 ■

2003/2/16（月） - 5/2（金）

■ お申し込み先 ■

運営機構総務局 2004 年会合係 (E-mail:

■ お申し込み内容 ■

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 使用人数
- 4) 希望する時間（開始・終了時刻）
- 5) 食事の希望有無（有の場合は弁当当）

§ 4. 6 保育希望の方へ

合同大会では、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉県認定保育施設をご紹介します。保育室の利用につきましては合同大会運営機構財務局より金銭的補助をいたします。詳しくは大会HP「各種お知らせ」にてご確認ください。

§ 4. 7 2004 年合同大会運営機構組織構成と連絡先

★大会委員長 平原和朗（名古屋大・理）

<<運営機構>>

代表 浜野洋三（東大・理・地感）

★財務局

中村正人（2004 年担当責任者 宇宙航空研究開発機構）

高橋幸弘（2004 年担当副責任者 東北大・理）

木村学（東大・理・地感）

志茂久男（国土地理院）

佐倉保夫（千葉大・理・地球）

綱川秀夫（東工大・理工・地感）

渡辺誠一郎（名大・理・地感）

★企画局

大村善治（2004 年担当責任者 京大・宙空電波研）

木村学（東大・理・地感）

安藤雅孝（名大・理・地震観測センター）

浦辺徹郎（東大・理・地感）

大谷栄治（東北大・理・地球物質）

末広潔（海洋科学技術センター）

深尾良夫（東大・地震研）

丸山茂徳（東工大・理工・地感）

安原正也（地質調査所）

ロバート・ゲラー（東大・理・地感）

★情報局 it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

坪井誠二（2004 年担当責任者 海洋科学技術センター研）

竹内希（東大・地震）

宮本英昭（東大・工・地球システム）

田近英一（東大・理・地感）

大村善治（京大・宙空電波研）

倉本圭（北大・理・地感）

林祥介（北大・理・地感）

古屋正人（東大・地震研）

坂本尚義（東工大・地感）

綿田辰吾（東大・地震研）

★総務局

岩上直幹（2004 年担当責任者 東大・理・地感）

石橋純一郎（九大・理・地感）

沖野郷子（東大・海洋研）

中村美千彦（東北大・理）

浜野洋三（東大・理・地感）

松浦充宏（東大・理・地感）

湯元清文（九大・理・地感）

渡部重十（北大・理・地感）

★プログラム局

吉田尚弘（2004 年担当責任者 東工大・総合理工）

原辰彦（建築研）

岩森光（東大・理・地感）

阿部豊（東大・理・地感）

小野高幸（東北大・理）

安藤寿男（茨城大・理）

北和之（茨城大・理）

篠原育（宇宙航空研究開発機構）

多田隆治（東大・理・地感）

中嶋悟（東工大・理工・理学研究流動機構）

村江達士（九大・理・地感）

近藤忠（東北大・理）

渡辺誠一郎（名大・理・地感）

合同大会はボランティアで成り立っています
皆様の積極的参加をお願いします

〈共催学会選出プログラム委員 正・副〉

- 資源地質学会
関陽児（産総研）・中山健（金属鉱業事業団）
- 地球電磁気・地球惑星圏学会
高橋幸弘（東北大）・石川尚人（京成大）
- 日本火山学会
下司信夫（産総研）・大野希一（日大）
- 日本岩石鉱物鉱床学会
榎並正樹（名古屋大）・廣井美邦（千葉大）
- 日本測地学会
加藤照之（東大・地震研）・松本晃治（国立天文台・水沢）
- 日本第四紀学会
奥村晃（広島大）・宮内崇裕（千葉大）
- 日本鉱物学会
坂本尚義（東工大）・三河内岳（東大）
- 日本水文学学会
杉田倫明（筑波大）・高橋正明（産総研）
- 日本地震学会
鷺谷威（名古屋大）・岡元太郎（東工大）
- 日本地下水学会
丸井敦尚（産総研）・林武司（産総研）
- 日本地球化学学会
鈴木勝彦（固体地球統合フロンティア研究システム）・角皆潤（北海道大）
- 日本地質学会
七山太（産総研）・久田健一郎（筑波大）
- 日本惑星科学学会
はしもとじょーじ（神戸大）・山本聡（東大）

（以上学会五十音順敬称略）

** 合同大会15周年記念パーティーの開催について **

2004年合同大会は合同大会が始まって15回目の記念すべき大会です。長年、合同大会の育成に力を尽くされた本蔵先生を中心に、「合同大会15周年記念パーティー」を企画しております。どうぞ、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳しい情報は決まり次第、一斉メール、またHP上で公開いたします。

[2] 第13回ゴールドシュミット国際会議

(Goldschmidt 2003) 終了報告

第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会委員長
松久幸敬

地球化学・宇宙化学分野の総合的国際研究集会である、第13回ゴールドシュミット国際会議 (Goldschmidt 2003) は、2003年9月7日(日)~12日(金)の期間、くらしき作陽大学(倉敷市)

を会場として開催され、成功裏に終了しました。会議へのご後援をいただいた地球惑星科学関連学会連絡会加盟の諸学会、および会議へのご参加をいただいた皆様へ厚くお礼申し上げます。現在、報告書を取りまとめ中ですが、この場を借りてとりあえずの終了報告をいたします。

当会議は、当初は800人規模の集会を想定していましたが、実際の参加者は1,100人を越え、ほぼ同数の論文発表が行われました。日本、米国、中国、オーストラリア、カナダ、イギリス、ドイツ等35ヶ国からの参加があり、とくにアジア・オセアニア地域からの参加が多かったこと、日本の学生の参加が多かったことは、この会議を日本で開催した意義として認められる点です。

特別シンポジウムテーマの策定にあたっては、昨年のダヴォス大会同様、国際プログラム委員会を組織して最近の重要な研究課題を網羅することに努めました。最終的に53件の特別シンポジウムと9件の一般シンポジウムからプログラムを作成しました。関心の高いトピックスとしては、宇宙における生命の起源と分布、太陽系の初期プロセス、地球形成初期の環境、サブダクション帯のプロセスと全地球物質循環、地球化学的固定と廃棄物の長期隔離等があります。新しい分析手法や、重元素安定同位体の分析と応用、生物圏と鉱物の相互作用などについても高い関心がありました。

くらしき作陽大学から立派な会場をご提供いただき、残暑が厳しいおりから、空調のきいた会場は参加者からの評判もすぶるよいものでした。今回は、スライド・プロジェクターを採用せず、パワーポイントとOHPによる発表に限りましたが、周到な準備のおかげで運営はスムーズに行きました。また、インターネットルールの整備に力をいれましたが、これについても参加者からの評判はよかったです。

会議の準備・運営には、組織委員会メンバーを中心に全国の研究者のご協力をいただきました。準備・運営に携わった皆さんに感謝いたします。また、倉敷市やくらしき作陽大学をはじめ、地元の方々からの全面的なご協力をいただきました。今回の会議を実現するにあたっては、その他実に多くの組織や個人から、財政的補助や有形無形のご支援をいただきました。ご協力いただいた方々にお礼申し上げます。

なお、来年のGoldschmidt 2004は、2004年6月5日~11日の期間、コペンハーゲンで開催されます。講演要旨の締め切りは2004年1月26日、事前登録締め切りは4月2日です。詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください (www.goldschmidt2004.dk)。 [Goldschmidt 2003 会議の概要]

開催期間: 2003年9月7日(日)~12日(金)

開催場所: くらしき作陽大学(倉敷市)

主催: The Geochemical Society (国際地球化学会)

The European Association of Geochemistry (欧州地球化学連合)

The Mineralogical Society of America (米国鉱物学会)

日本地球化学会 (The Geochemical Society of Japan)

後援: (独立行政法人) 産業技術総合研究所, (学校法人) くらしき作陽大学, 倉敷市, 岡山県

学協会後援：20学協会（名称略）

協力機関：（特殊法人）国際観光振興会ほか

参加者数：1,170名（外国550名，国内620名），うち同伴者42名（外国33名，国内9名）

論文投稿数：1,154件（口頭発表762件，ポスター発表392件），うち特別講演4件

シンポジウム数：62件（特別シンポジウム53件，一般シンポジウム9件）

会場数：講演10会場＋全体会議会場＋ポスターセッション会場（前・後半2グループ）

その他の行事：ショートコース「ICP質量分析」，ゴールドシュミット国際会議記念倉敷市民講演会「地球と生命のふしぎ」，企業展示，アイスブレイカー，ウェルカムコンサート，パンケット，エキスカッション（瀬戸内海クルーズと岡山，姫路城，九州），ファミリープログラム，チャイルドケア

[3] 第28回地球惑星科学関連学会

連絡会議事録(案)

日時：2003年9月24日（水）14:00～16:00

場所：東京大学地震研究所第2会議室

出席者：安藤寿男（地質学会），奥村晃史（第四紀学会），鍵裕之（地球化学会），掛川武（岩石鉱物鉱床学会），木下正高（IUGG組織委員会），佐藤キエ子（陸水学会），篠原育（地球電磁気・地球惑星圏学会），志茂久男（測地学会），末永弘（応用地質学会），関陽児（資源地質学会），高橋正明（水文科学会），高橋幸弘（地球電磁気・地球惑星圏学会），竹本修三（測地学会），田近英一（惑星科学会），津田敏隆（気象学会），中村正人（運営機構），浜野洋三（運営機構），林武司（地下水学会），原辰彦（運営機構），平原和朗（地震学会，連絡会会長），南島正重（地学教育学会），諸井孝文（地震学会），山野誠（地震学会），塚本尚義（鉱物学会），綿田辰吾（運営機構），渡辺秀文（火山学会），以上26名

配付資料：

1. 議事次第
2. 2003年合同大会収支
3. 2004年合同大会に関する資料
4. 第23回国際測地学・地球物理学連合総会 成果概要
5. 過去の合同大会に関する資料

議事：

1. 前回議事録の承認（連絡会会長：平原）
2003年度地球惑星科学関連学会長懇談会議（拡大連絡会議，5月29日開催）議事録について，案の通り承認された。

2. 2003年合同大会決算報告（運営機構：中村）

運営機構財務局から2003年合同大会の決算報告があった。2003年度（2002年7月1日～2003年6月30日）の収支は，90,014円の黒字であった。

2002年度と比較すると，幕張メッセを会場としたことにより会場使用料・設備費用が大幅に増加した一方，学術情報センターへの資料提出による収入がなくなった。このため，参加料の事前割引率を下げるとともに，アルバイトの人数・単価の削減，事務局経費の節約等に努めた結果，収支をほぼ均衡させることができた。

3. 会計監査報告（連絡会会計幹事：末永）

連絡会会計幹事より，9月24日に運営機構事務局（東京大学内）において決算報告書の監査を行い，予算の執行，帳簿・商標の整理等，正常適正に処理されていることを確認した旨が報告された。

4. 2004年合同大会の準備状況（運営機構：中村，原，浜野）

(1) 2004年大会の準備状況について，配付資料に基づいて説明がなされた。

・日程，会場は

2004年5月9日（日）～13日（木）

幕張メッセ国際会議場（2003年大会と同じ）

とする。5日間とするのは，2003年大会（4日間）では時間が不足し，プログラム編成に無理が生じる，会合の時間を十分に確保できない等の問題があったためである。

・投稿料，登録料は2003年と同額とする。会場使用料が増えるため，参加者数が変わらない場合には赤字となる。赤字を減らすには参加者の増加が必要であり，各学会は参加者を増やす努力をしてもらいたい。

・事務経費節減のため，各種費用の支払い方法をクレジットカード払いに変更する。校費払いの取り扱いは，従来通りを行う。

・予稿の投稿，プログラム編成等に関しては，これまでの確立されたシステムを踏襲する。

(2) 質疑等

・レギュラーセッションは変更されないのか

レギュラーセッションには，各学会からの提案により2001年大会から始まったもの，及びグループ提案のスペシャルセッションから移行したものがある。5年程度で見直す予定である。

・日程に日曜日が入ったのはなぜか

初日を日曜日とすることで，学校教育関係者等が参加しやすくなる。また，月～金曜日をすべて潰さないでほしいという要望もある。

(3) 日程，会場，各種料金について運営機構案が承認された。

(4) 2005年以後について

・2005年大会の日程

2005年は4月27日を含む週（連休前）での開催を計画している。これについて，各学会の意見を聞きたい。この週がダメな場合には，会場の関係で5月末の開催となる。

・JCOMの取り扱い

これまで運営作業の大部分を業者（JCOM）に請け負わせてきたが、今後は、ソフトハウスにシステムを構築させ、運営機構事務局を強化して大会運営を機構側に大幅に移すことにしたい。このため、事務局人数を3人から4人に増やしている。

・収支予測

参加者数が変わらないとした場合、2004年は500万円程度の赤字が出る。2005年については、事前登録の割引をなくすと収支がほぼ均衡する。割引を継続するには、参加者を増やすこと、システムをより安く作ること等が必要となる。

5. IUGG2003 報告（IUGG 組織委員会：木下）

(1) 2003年6月30日から7月11日まで12日間こわたり、北海道札幌市にて第23回国際測地学・地球物理学連合総会（IUGG2003）が開催された。これまでのIUGG総会の参加者数を上回る4,500名をこえる参加者があった。新型肺炎（SARS）の影響が危惧されたが、それによるキャンセルは100名以下であった。

(2) 最終的な決算がまとまるのは10月後半になるが、収支がほぼ均衡する見込みである。募金も目標額の半分（3000万円）をこえた。

6. Goldschmidt 2003 報告（地球化学会：鍵）

2003年9月7日～12日にくらしき作陽大学（倉敷市）において、第13回ゴールドシュミット国際会議（Goldschmidt 2003）が開催された。参加者は1170名（外国550名、国内620名）に達し、発表件数は1154件であった。学生、および発展途上国の若手研究者に対しては、参加費用の補助が行われた。なお、今回の倉敷大会を機会に、日本地球化学会は今後開催される Goldschmidt Conference の主催団体の一つとなることになった。

7. 合同大会の運営について

(1) 運営機構代表の浜野氏より、運営機構発足の経緯と現状、問題点について説明が行われた。

合同大会は1990年に、各学会の春の大会を同じ場所と一緒に行うという形でスタートし、大学が持ち回りでLOCを担当して開催してきた。当初、開催費用は各学会の持ち寄りであったが、1998年に会場を国立オリンピック記念青少年総合センターとした時より、LOCが参加費を個人から徴収するという形になった。これが、結果的に各学会が主催するという意識の低下を招いたように思われる。

2000年の時点でLOCを勤める大学が一巡したことになり、次を引き受けるところがないという状況が生じた。合同大会を続ける意義が大きいことから、新たな運営体制が検討され、2000年6月の連絡会で承認を受けて「地球惑星科学合同大会運営機構」が発足し、従来のLOCにかわって合同大会の運営を行うようになった。この運営機構は、当初は東京大学地球惑星科学専攻に事務局をおき、3～5年間で組織を作り上げるという方針でスタートしたものである。既に3年が経過し、合同大会の運営は順調に行われているが、いくつかの問題を抱えているのが現状である。

問題点の第1は、運営機構に新しい人が入ってこないことであ

る。特定の人に負担が集中するのではなく、少しずつメンバー交替をして行くべきであるのに、それができていない。これを解決するには、主催団体である各学会が運営機構に人を出すことが必要である。

第2に、連絡会と運営機構の役割分担があいまいである、という問題がある。はっきりとさせるには明文化した規約が必要であり、2004年合同大会を一つの目処として規約の制定を目指したい。

各学会において連絡会がどのように位置づけられているか、についても確認する必要がある。情報が連絡委員で閉じることなく、連絡会の議事が各学会にきちんと伝わる必要があるのはもちろんである。さらに、連絡会の場でしっかりした議論を行うには、事前に各学会の意見がよく集約されており、連絡委員に権限が与えられていなければならない。

連絡会の他に地球惑星物理学関連学会会長懇談会というものがあり、連絡会に学会長が加わった拡大連絡会を含めて、相互の関係が明確でなく、多くの会員には理解されていないものと思われる。また、いずれも連絡会や懇談会であって、地球科学分野を代表して社会に向けて発言することができない、という問題もある。これらの点についても、今後改善が望まれる。

なお、各学会の主催者意識を高める目的で、2003年合同大会からは、主催学会の代表である連絡会会長が大会実行委員長を兼任することになった。

(2) この報告を受けて、連絡会会長より、連絡会と運営機構の役割分担について規約の制定を進めることが提案され、承認された。規約の原案作成は運営機構に依頼し、この原案を各学会で検討した上で、2004年合同大会（5月）の連絡会で議論することとした。また、各学会が主催者であるという意識を強く持ち、積極的に運営機構に参加することが要請された。

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第29号
2003年12月4日発行

発行：地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会会長 平原和朗
編集：地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会幹事会ニュースレター担当 諸井孝文